

ヤゴレンジャーを募集しています

毎年、ヤゴ救出作戦のリーダー(学習指導者)「ヤゴレンジャー」の派遣を行っています

豊島区では、平成13年度(2001年度)より子供たちの環境教育の一環として「学校プールのヤゴ救出作戦」を実施し、都会でも子供たちが生き物に触れられる自然体験の場として各小学校に定着しております。今後もヤゴレンジャーの充実を図るため、一緒に活動していただける大人の方を募集しています。

ヤゴレンジャーの1年間の活動



お問い合わせは、下記 発行元まで！お待ちしております！

ヤゴレンジャーのご紹介

赤尾さん ヤゴレンジャー歴10年超
虫が好きで参加しました。喋るのは苦手ですが少し克服できました。虫が苦手な子が少しでも克服出来るように心がけてます。苦手だった子が「ヤゴ可愛い」と言ってくると嬉しいです。



曇(もたい)さん ヤゴレンジャー歴10年
息子の学校からの保護者お手伝い募集で参加しました。ベテランレンジャーさん達のお手伝いをさせていただき、生き物との触れ合いを楽しんでいます。ぜひ一緒に活動しませんか？



森さん ヤゴレンジャー歴7年
プール清掃時に流されてしまうヤゴを救い、飼育し、トンボへの羽化を観察することは理科を越え純粋に感動できる瞬間です。そんな経験を多くの子供達にしてもらいたいと活動をしています。



中島さん ヤゴレンジャー歴7年
ヤゴレンジャーは区の広報で知りました。地域活動と都市の自然環境に関心があり参加をしました。「生き物の知識」「授業の準備」は、活動しながら身につけるとおもいます。



富成さん ヤゴレンジャー歴4年
初めは子供達も「こわい〜」といい、そんな子供達を前に、さらっとヤゴを捕まえ、軽くドヤ顔をする。醍醐味です。子供達も、好奇心が勝って皆ヤゴに触れるようになり、笑顔があふれます。楽しいですよ♪



朝日向さん ヤゴレンジャー歴7年
最初は小学校の自然活動に興味があり、参加しました。子供達がヤゴや生き物に接するキラキラした瞳を見るのが大好きです。また、ここで知り合えた仲間との出会いも毎年楽しみです。



以上のメンバー以外にも、子供が好きな人、教育活動が好きな人など、総勢14名で活動しています。
※令和4年2月現在の人数です。

発行元:豊島区環境清掃部環境政策課事業グループ
電話:03-3981-2771 FAX:03-3980-5134
Eメール:A0029180@city.toshima.lg.jp
掲載されている記事・写真・イラスト等の無断転載・複製を禁じます。

編集:としまヤゴレンジャー・ニュースレター編集委員会
デザイン制作:ARU株式会社
表紙写真提供:小島さん、森さん(ヤゴレンジャー)

学校プールは 生き物がいっぱい

生物多様性を高める活動に参加しませんか



- トンボとプールの1年間の物語
- 大正大学公共政策学科 高橋ゼミとの地域連携
- としまヤゴレンジャーのヤゴ救出作戦レポート
- 今年プールにいた生き物たち2021
- 生物多様性のあるプールの産卵場づくり(エコアツプ)
- ヤゴレンジャーを募集しています
- ヤゴレンジャーのご紹介



豊島区は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

令和4年3月発行

トンボとプールの1年間の物語



学校プールは、水泳の授業の顔だけではなく、防火用水の役割もあります。秋冬春を通して貯水することは、プランクトン(水生生物のエサになる浮遊生物)や水辺を好む生き物たちも呼び寄せます。水泳の授業が終わると、トンボたちが卵を産み、ヤゴ(トンボの幼虫)が生まれますが、初夏のプール清掃時に死んでしまいます。そこでヤゴを救出することで、生き物に触れ合うことができる場を提供する「ヤゴ救出作戦」という取り組みがはじまりました。

12~4月のプールはビオトープ。プランクトンがいっぱいに広がり濃緑色。アカネは卵で、ヤンマはヤゴで静かに春まで越冬しています。



7~8月はプールの季節で水泳の授業。アキアカネは暑さを避けて山へ。一部のトンボはプールの水面に腹先でちょんちょんと産卵。でも消毒の塩素があるので、ふ化はできません。



月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
アキアカネ	卵	卵	卵	幼虫	幼虫	幼虫	成虫	成虫	成虫	成虫	成虫	成虫
ギンヤンマ	成虫	成虫	成虫	成虫	成虫	成虫	成虫	成虫	成虫	成虫	成虫	成虫

5~6月はヤゴ救出作戦授業。この時期のプールには、腹を上向きにして泳ぐマツモムシやコマツモムシ、水面を泳ぐアメンボ、ミズカマキリ、ハイロゲンゴロウなどが見られることがあります。



9~11月は防火用水と産卵場。プールが終わったら早めに産卵場づくり(エコアップ)。イトトンボやギンヤンマは浮き草がないと産卵できません。

大正大学公共政策学科 ヤゴ救出作戦

社会共生物学部 学部長 高橋正弘教授

高橋ゼミとの地域連携の環境教育論



4年生 須田遥香さん



都会では、ヤゴに触る機会がなかなかないので、貴重な体験になります。虫が苦手でも大丈夫！保護者の方や私たちのような地域の大学生が指導に加わりみんなで一緒にするヤゴ救出は探究心が育まれるはず。私も虫が大の苦手ですが、最後は手で捕まえられるようになっていました！

ヤゴレンジャーをインタビュー調査し卒業論文にする学生さんもいます。



としま ヤゴレンジャーの ヤゴ救出作戦レポート

区内18校実施

仰高小学校



今年はSDGsの環境分野の取組みに力を入れていて3年生が水辺の生物多様性に取り組みました。前年度に副校長先生が水草を投入したものがヤゴの産卵場や生息域となり多種多様な生き物がいました。

さくら小学校



2年ぶりの救出作戦となり、複数の学年で密を避けるため校時を分けて開講しました。前年度の産卵場づくり(エコアップ)効果でギンヤンマもシオカラもたくさん成長していて多数のヤゴを救出できました。

その他のヤゴ救出作戦を開催した小学校

駒込小・巣鴨小・清和小・西巣鴨小・朝日小・池三小・池袋小・南池小・高南小・目白小・長崎小・要小・椎名町小・富士見台小・千早小・高松小。※工事による休止は朋有小・池一小。西巣鴨小ではシオカラが3,000匹超。朝日小ではギンヤンマが300匹超。椎名町小ではアカネが2,000匹超。その他オオヤマトンボ・コシアキトンボ・ショウジョウトンボなどのヤゴも生息確認。

今年プールにいた生き物たち2021

イトトンボ	イトトンボのヤゴと赤虫	ショウジョウトンボとヤゴ	オオヤマトンボのヤゴ	コシアキトンボとヤゴ
マツモムシと脱皮殻	ヒメゲンゴロウ	ハイロゲンゴロウ	オタマジャクシとギンヤンマのヤゴ	ヒキガエル
				カルガモ

写真提供:ヤゴレンジャー村上さん

生物多様性のあるプールの産卵場づくり(エコアップ)

プールを使わない季節に、多種多様な生き物のいのちが育まれる環境にするために、人の手で整備、創出する活動をしています。防火用水として水の張ってあるプールに少し手を加えることで、浮き草などで産卵するギンヤンマのヤゴやその他の生物のすみかとなり、来春のヤゴ救出作戦の学年の子供たちが身近な生き物と触れ合う機会も増やすことができます。(小島)

西巣鴨小学校

来年の3年生がたくさんのヤゴやプールの生き物を観察できるように、栽培飼育委員の5・6年生が協力し校庭の雑草を束ねてプールに浮かべました。(村上)



さくら小学校

設置に参加した皆さんに、トンボの産卵方法や種類で産卵場づくりが異なること、生態環境を自分達で守れる方法があることを知ってもらえました。(小島)



浮舟式

ギンヤンマイトトンボが産卵できる

はしこ渡し式

